

STAGE+を楽しむ(338)(HP 収載)

—モーツァルトのレクイエムと交響曲第 41 番《ジュピター》—

1. 始めに

前報(337)に引き続き、STAGE+のモーツァルトのレクイエムと交響曲第 41 番《ジュピター》の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、前報(327)に引き続きモーツァルトのレクイエムと交響曲第 41 番《ジュピター》を選びました。

アンドレアス・オッテンザマーが指揮するモーツァルト晩年の傑作
レクイエム&交響曲第 41 番《ジュピター》

収録日: 2025 年 12 月 5 日

モーツァルトの最後の作品で未完のまま残された「レクイエムニ短調」ほど、謎に包まれた作品は音楽史上まれと言えるでしょう。この傑作を取り巻く俗説と匿名の依頼主をめぐる背景事情を解き明かすのには何世紀もの歳月を要しました。現在では、その委嘱が、妻を追悼する作品を望んだヴァルゼック伯爵によるものであったことが明らかになっています。このレクイエムは、モーツァルトの死から 2 年後の 1793 年 12 月、ウィーナー・ノイシュタットのノイクロスター教会で当初の計画通り伯爵夫人への追悼として演奏されました。本配信では、アンドレアス・オッテンザマーが指揮者としてこの歴史的な演奏を再現するとともに、モーツァルトの偉大な最後の交響曲《ジュピター》も披露されます。

ソリスト:

ケイト・リンジー (メゾソプラノ)、マシュー・ニューリン (テノール)、アレクサンダー・グラスアウアー (バスバリトン)、クリスティーナ・ガンシュ (ソプラノ)

演奏:

トーンキュンストラ管弦楽団、アンサンブル・インターブント

指揮:

アンドレアス・オッテンザマー

曲目:

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト 交響曲第 41 番ハ長調 K. 551
《ジュピター》

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト レクイエム ニ短調 K. 626
クリスティーナ・ガンシュ(ソプラノ)、ケイト・リンジー(メゾソプラノ)、マシ

ユー・ニューリン(テノール), アレクサンダー・グラスアウアー(バスバリトン),
アンサンブル・インタープункト(合唱)
イグナーツ・フォン・ザイフリート 《主よ、我を解き放ちたまえ》
アンサンブル・インタープункト(合唱)



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結しています。

また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、LAN iPurifier Pro の交換後に元に戻しています。

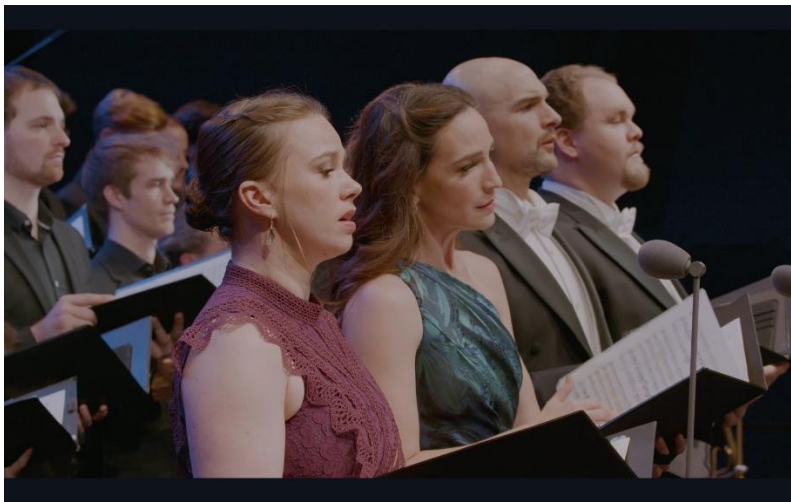
今回は、PC の受信からクロック入力 of 修理済の Brooklyn DAC+ に送り出しています。

また、PC と Brooklyn DAC+ の間の介在は、iPurifier USB からインフラノイズの USB アキュライザーに交換しています。クロック入力は ABS-7777 を適用しています。

モーツァルトの交響曲第 41 番《ジュピター》は、爽やかに澄んだ音のモーツァルトです。収録環境は由緒あるホールのように素直な響きがしています。

モーツァルトのレクイエムは、最新の収録だけあって、解像度がよく、合唱は力強く、ソリスト達の歌唱は明晰で、オーケストラは爽やかに協和しており、現代の宗教曲の見本のような演奏です。

ザイフリートの《主よ、我を解き放ちたまえ》は、厳粛で敬虔な祈りの合唱曲です。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777 からのクロック入力の Brooklyn DAC+に送り出し、PC と Brooklyn DAC+の間には USB アキュライザーに交換した結果、交響曲第 41 番《ジュピター》は、爽やかに澄んだ音のモーツアルトであり、レクイエムは、解像度がよく、合唱は力強く、ソリスト達の歌唱は明晰で、オーケストラは爽やかに協和しており、現代の宗教曲の見本のような演奏でした。

以上

